

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ステラ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		2023年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児童の多くが同じ法人内にあるこども園の児童であるため、園との連携が図りやすい。	・療育の送り迎えの時など、普段からクラスとの情報交換を行うようにしている。	・連携が図りやすいメリットを生かし、今以上にクラスとの情報共有を密にして、日々子ども支援につなげていく。
2	・職員数が多い(子どもを支援していく上で手厚い)、専門職員がいる。	・職員個々の強みも生かしながら、日々の療育を行っている。普段から口頭でのやりとり等、気になることや成長面など、コミュニケーションを図っている。今年度は言語聴覚士を配置しており、言語療育も充実していた。	・研修や勉強会の活用など、職員個々のスキルアップを図っていき、療育の質を高めていきたい。園とのやりとりもより密にしていき、クラスの様子や療育の様子などを共有していく。
3	・ニーズが多い(利用者が多くなっている)、保護者に喜ばれている。	・開設して2年目であるが、年度途中から希望者が増えており、その都度調整を行いながら受け入れをしている。	・研修や勉強会の活用など、職員個々のスキルアップを図っていき、療育の質を高めていきたい。園とのやりとりもより密にしていき、クラスの様子や療育の様子などを共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員全体での情報の共有が不十分である。	・職員の勤務時間のちがいや兼務をしている職員もいるため、日々の職員同士でのやりとりにとどまっている。 ・支援の振り返りや業務面のことなど、全体で共有するための時間が十分に設定できていない。	・支援会議の際にプラスアルファで全体への周知等の時間を設けていく。 ・日々の業務面の見直しを行う。 ・不在の職員に対しての周知の仕方の再考。
2	・地域とのつながりが薄い。	・法人内でのフェスティバルなど、行事と一緒に参加する機会にとどまっている。	・地域との関わりという点から何ができるのかを職員間で考えていく。
3			